



“Virtue is Harmony—美德とは調和である”
古代ギリシャにこの言葉を遺したのは、賢人ピタゴラスです。

ご存じの通り、この世界のあらゆる現象を数字で説明しようとした数学者です。

同時に、心と体、感情と理性、個人とコミュニティの間に生まれる「ハーモニー」、すなわち「調和」について探求した、哲学者でもありました。

人類は、2,500年も前から、「調和」を“理想の状態”と捉え、追い求めてきたのです。

調和 する社会

そこで今日は、日立がめざす「調和する社会」についてお話しします。

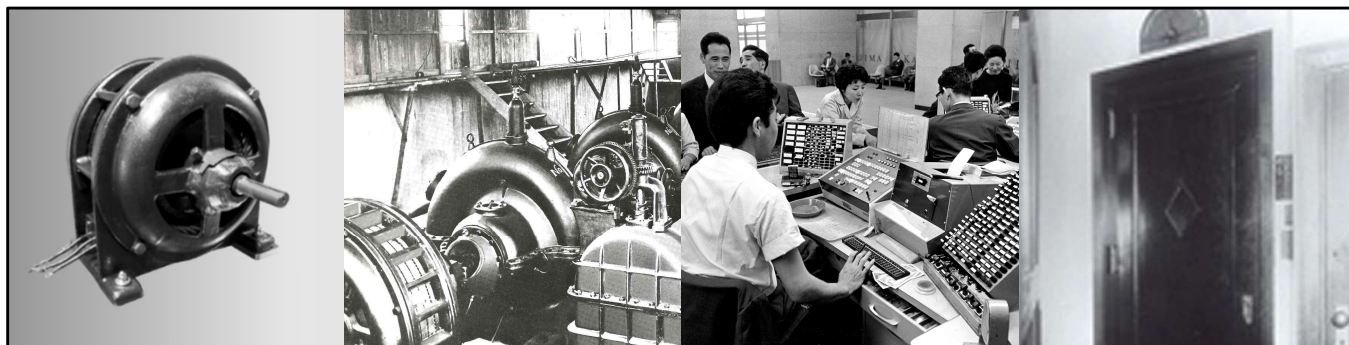


皆さん、こんにちは。
そして、Hitachi Social Innovation Forum 2025 JAPAN, Osakaへ
ようこそ。

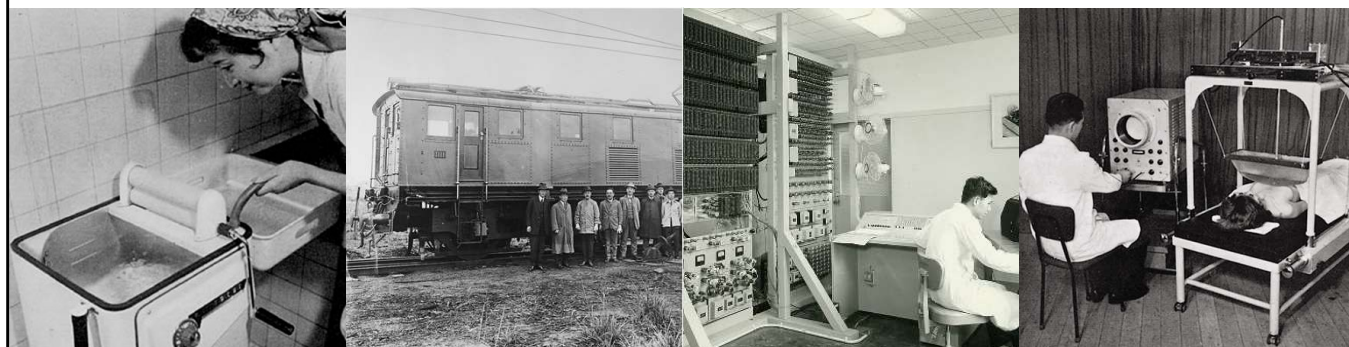
大阪で開催する初めてのHitachi Social Innovation Forumとなります
ので、本題に入る前に、少しだけ日立グループの自己紹介をさせてく
ださい。



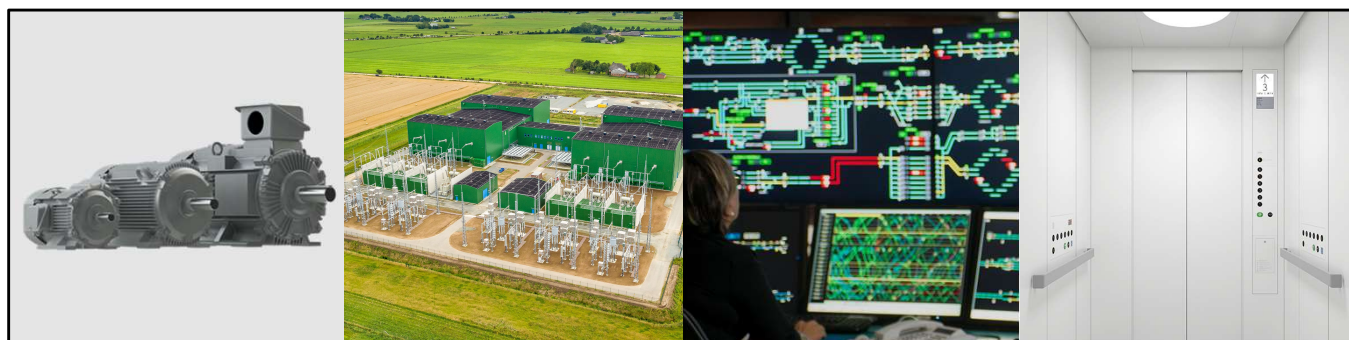
日立は、100年以上にわたって磨き上げてきたプロダクト、制御・運用技術であるOT、そして情報技術であるITを組み合わせ、社会課題を解決する「社会イノベーション事業」に注力しています。



優れた自主技術・製品の開発を通じて社会に貢献する



「優れた自主技術・製品の開発を通じて社会に貢献する」という
企業理念は、創業以来115年にわたって、一度も変わっていません。



What's next ?

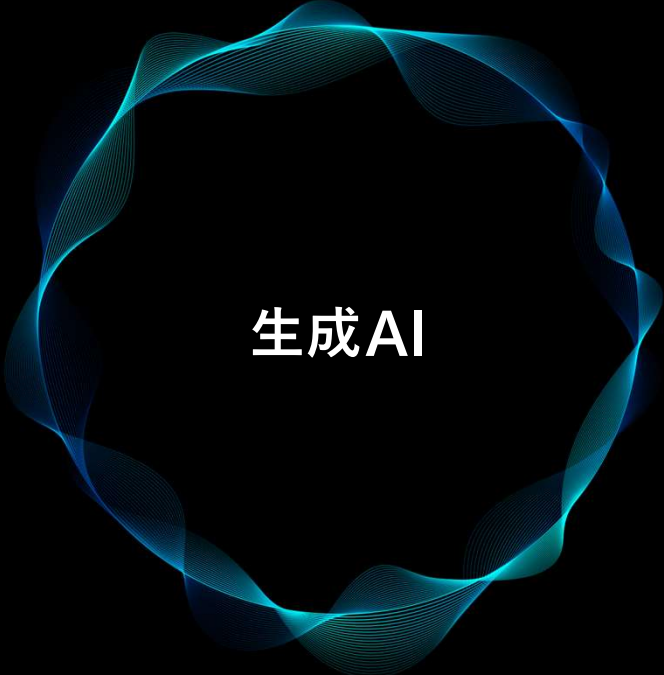


先人たちは、次の時代をInspireするために、常に「What's next?」と問い続けてきました。ここで、日立の変わらぬ理念を垣間見ることができるエピソードをいくつかご紹介しましょう。

【映像が流れる】

私は日立グループ創業の地・茨城県日立市で生まれ、そこで働く人々の「社会に貢献する」という強い信念を見て育ちました。

その思いは、グローバル28万人の日立グループ社員に受け継がれ、社会課題の解決をめざして、様々な製品やサービスを生み出し続けています。



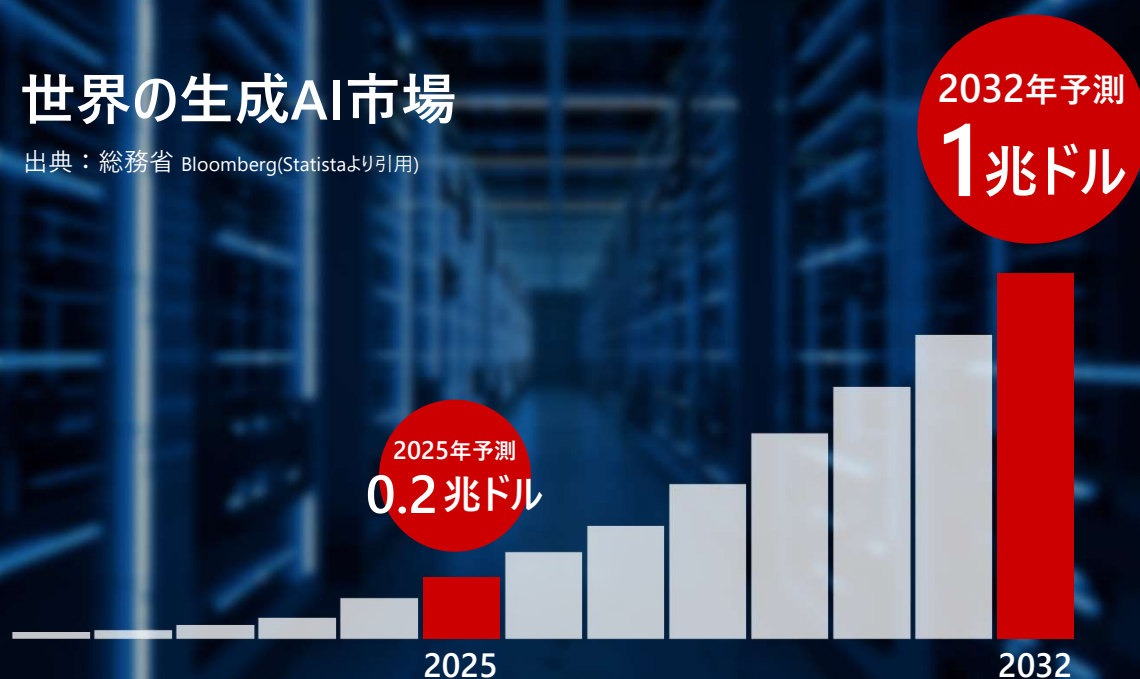
生成AI

変わらず受け継がれるものもあれば、想像もしなかった変化をもたらすものもあります。

たとえば「生成AI」は、世の中を大きく変えました。
そして、生成AIの進化は、そのスピードを上げ続けており、
新たにもたらされた変化が、連日ニュースになっています。

世界の生成AI市場

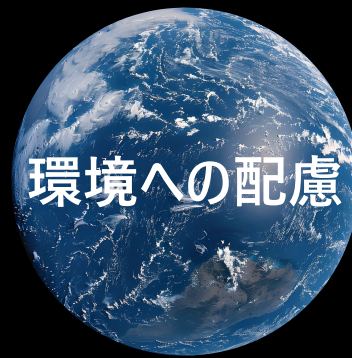
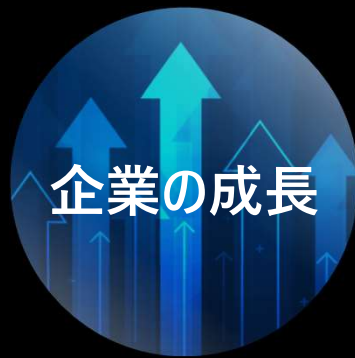
出典：総務省 Bloomberg(Statistaより引用)



市場規模も拡大を続けており、2032年には1兆ドルを超える見通しです。



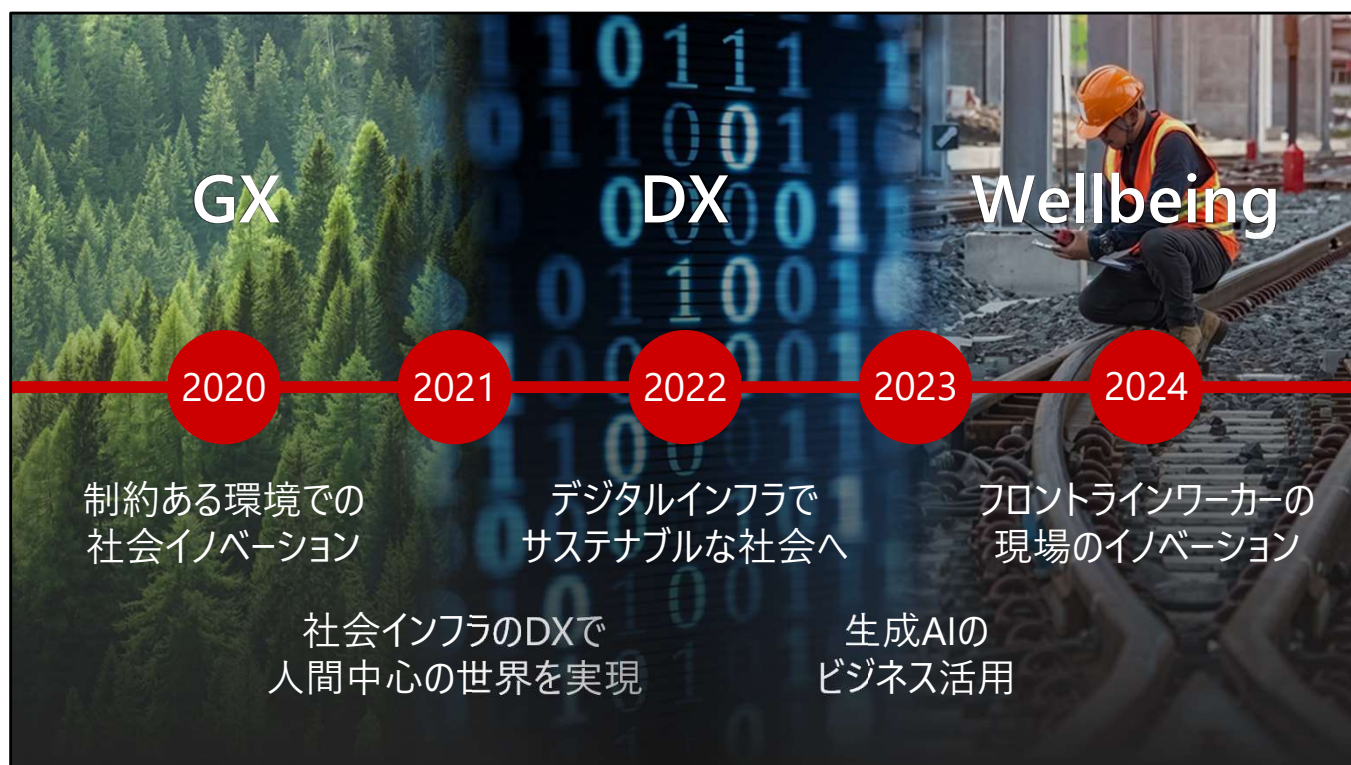
しかし、生成AIの華々しい進化の裏側では、データセンターの増加による環境負荷の増大や、倫理問題の顕在化など、課題が山積みです。



新たなテクノロジーによってビジネスは成長しますが、その裏側で、環境への配慮が後回しになっているかもしれません。

一方で、環境への配慮により、コストや開発スピードが制約され、ビジネスの成長が鈍化する。

そんなジレンマは、いたるところで私たちの頭を悩ませています。



経営者が取り組むべき課題は、時代に応じて変化します。

このHitachi Social Innovation Forumでも、社会のトレンドを捉えながら、時にはDX、時にはGX、そして時にはウェルビーイング...

その時々で私たちがめざす社会をご提案してきました。



そして今、自国優先主義の高まりや、欧州や中東での紛争など、世界のあらゆる場所で「分断」が生じています。

和 Harmony



一方、日本という国は「和」を尊び、他者との「共感」を重視しながら発展してきました。

そして、この「和」は、当社の創業の精神の一つとして受け継いできた大切な価値観でもあります。

私は、分断が深刻化している今こそ、こうした日本の強みを活かすチャンスだと考えています。



今、日立がめざしているのは、「ハーモナイズドソサエティ」。

すなわち環境・幸福・経済成長が、トレードオフではなく、調和する社会です。

経済成長を環境や幸福の足かせにせず、地球環境の維持と人々の幸せの追求を通して、企業が成長していく。



未財務的価値



ハーモナイズドソサエティの実現を通じ、環境や幸福という、
いわば「未財務的価値」の追求が・・・



財務的価値

企業の成長、すなわち「財務的価値」に繋がることを示していく。

この世のすべてを数字で表現しようとしたピタゴラスと同じような挑戦を続けていきたいと考えています。

 進化したLumada

 「真の」One Hitachi

 ソサエティとの協創

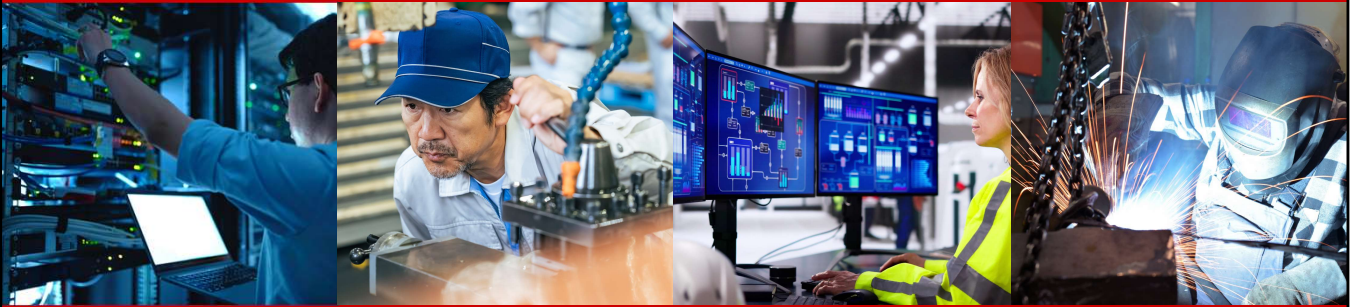
「そんな理想的な社会は作れるのか？」というご指摘をいただきそうですので、ここからはハーモナイズドソサエティの実現に向けて、日立が持つ「3つのカギ」についてお話します。

進化したLumada

まず1つ目は、「進化したLumada」です。

Lumadaは2016年のローンチ以降、数多くのお客さまのDXをご支援してきました。そしてLumadaは今、さらなる進化を遂げようとしています。

ドメインナレッジ と AI の融合



その原動力は、「ドメインナレッジ」と「AI」との融合です。
「ドメインナレッジ」とは、現場に蓄積されてきた膨大な暗黙知やデータ、そしてそれらを長年分析してきた日立ならではのノウハウです。

そこに生成AIが登場したことで、より効率的にこれらドメインナレッジを現場で活用できるようになりました。

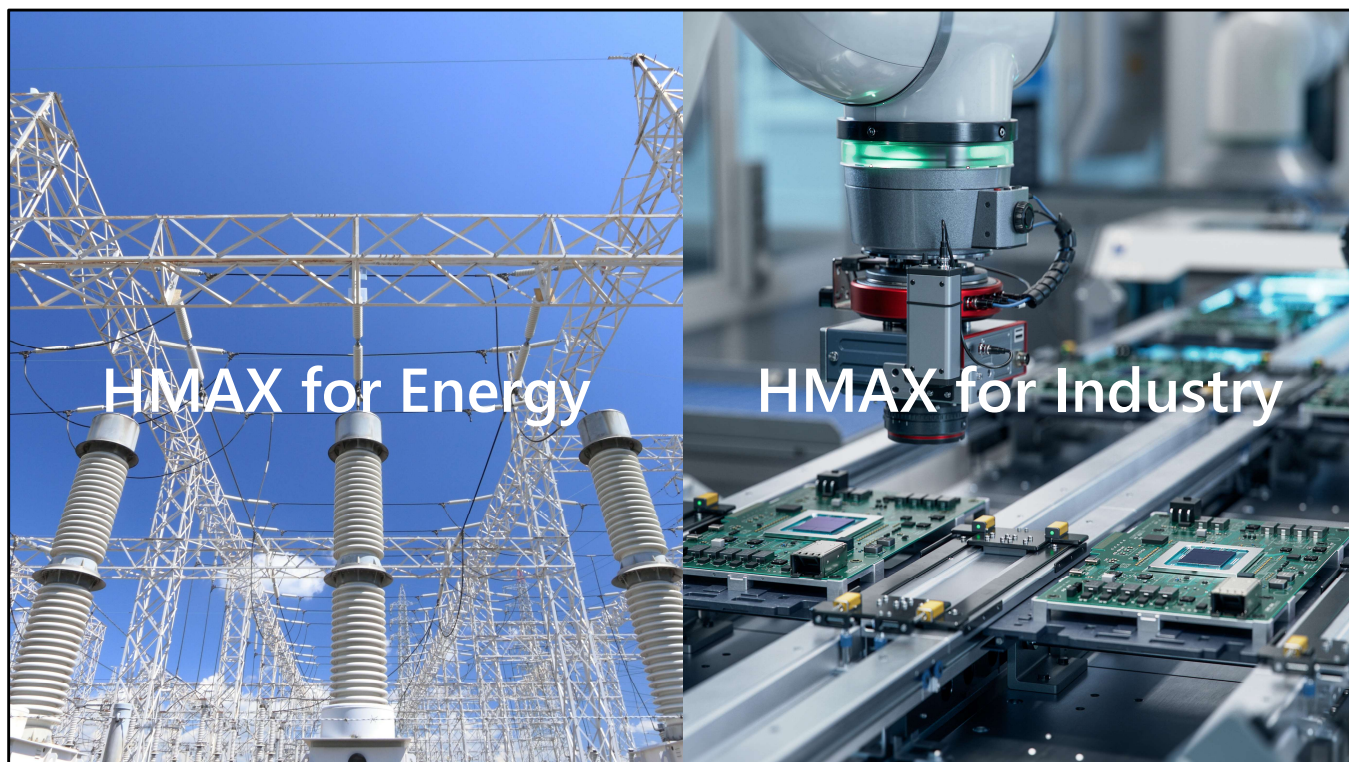
AIがドメインナレッジを学習し、お客さまの資産効率の向上や、運用の高度化に貢献する。それが「進化したLumada」です。

では実際の現場でどのような変化が起きているのか？
先日、鉄道車両のメンテナンス現場を見てきました。

【映像が流れる】



進化したLumadaの代表例であるHMAXは、保守にかかるコストや、車両が消費するエネルギーの低減、そして、列車遅延の削減など、経済・環境・幸福のすべての価値を提供しています。



そして今、日立グループが世界中に有するインストールベースに、ドメインナレッジとAIを組み合わせ、HMAXは、エネルギー業界や、製造業界にも広がり始めています。



フロントラインワーカーの現場を革新

現場で働くフロントラインワーカーの負担を軽減することで働き方を改革し、さまざまな現場に革新をもたらしています。

HMAXにより、業界の壁を越えてドメインナレッジが共有されれば、これまでよりも遥かに速いスピードで現場が抱える課題への解決策が見つかる。

さまざまな業界のお客さまと共に歩んできた日立だからこそ、新たな価値をご提供できると自信を持ってお伝えできます。

データを新たな価値に変え、ハーモナイズドソサエティの実現に貢献する「進化したLumada」に、ぜひご期待ください。

 「真の」One Hitachi

Lumadaは進化を続けていますが、テクノロジーの力だけでは、ハーモナイズドソサエティという壮大なビジョンを形にはできません。

ここで2つ目のカギ：「真のOne Hitachi」です。

日立は、IT、OT、そしてプロダクトを1社の中に併せ持つという強みを活かし、さまざまな業界のお客さまの課題を解決してきました。

また、十数年にわたる構造改革と、その後の成長戦略によって、個々の事業は力強く伸長しました。

しかし、日立グループが本当の力を発揮するのは、これからであると私は考えています。



今まで以上に日立グループがひとつになり、新しい価値を生み出していく姿を、私は「真のOne Hitachi」と呼んでいます。

真のOne Hitachiにより、お客さまの想像を超える新しい価値を提供できる。

日立グループにしか解決できないような複雑な課題へのソリューションをご提示できると信じています。



ここで、エネルギー分野の例を見てみましょう。

去年は観測史上最も暑い年でした。世界の平均気温は産業革命の前と比べて1.6度上昇しました。

この状況を踏まえ、去年のCOPでは、気候変動対策を進めるため、蓄電容量を2030年までに現在の6倍、1兆5,000億ワットにするという目標が立てられました。

EVバッテリー



こうした中、日立が注目しているのは、電気自動車の動力である「EVバッテリー」です。

EVバッテリーを社会全体の蓄電池として活用することで、天候により出力が変動しやすい再生可能エネルギーの利用拡大にもつながります。



また、EVバッテリーのライフサイクルである「製造、利用、再利用」の循環を社会全体で加速し、蓄電池としてのポテンシャルを高めるため、日立グループのノウハウを結集させています。

「真のOne Hitachi」でつながり、未来への挑戦を続ける仕掛け人たちに、話を聞きました。

【映像が流れる】



EVバッテリーの循環を加速することは、環境にやさしく、利便性が高く、そしてエネルギー効率に優れた移動手段の提供という、ハーモナイズドソサエティの一つの実現例であると考えます。



ご覧いただいた取り組みは、「真のOne Hitachi」のごくごく一部にすぎません。

EVバッテリーの活用を巡っては今日、ご紹介できなかったソリューションがまだまだあります。

日立は、これらのソリューションを統合し、ネットゼロの実現に向けた取り組みを加速していきます。

ソサエティとの協創

ここまで日立が、ハーモナイズドソサエティ実現のために持つ
2つのカギ：「進化したLumada」と「真のOne Hitachi」について
お話ししました。

しかし、どれほど技術が進歩し、日立グループが一つになったとしても、
複雑な社会課題を解決するには、十分とは言えません。

そこで登場する最後のカギが、「ソサエティとの協創」です。
協創の主人公は、企業でも自治体でもなく、
「社会を形づくる人々」です。



一人ひとりの住民の声が原動力となり、テクノロジーを使いながら、めざすべきソサエティの輪郭が少しずつクリアになっていく。

こうした変化の後押しを、日立グループは率先して行っていきたいと考えています。

2040年 65歳以上が全人口の約35%に

出典：厚生労働省

国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)」「(出生中位(死亡中位)推計)」



日本では2040年に全人口の約35パーセントが65歳以上になると予測されています。

公共サービスやインフラの維持が困難になり、地域の活力の喪失や、住民同士の交流の減少など、さまざまな問題が深刻化することが懸念されています。

茨城県日立市

人口は1983年の20万人をピークに**4万人以上減少**

出典：日立市の人口のうつりかわり
日立市総務部総務課

206,260人

1983年

163,300人

2024年

日立グループの創業の地、茨城県日立市も、例外ではありません。
市の人口は、1983年の20万人をピークに、4万人以上減少。

日立市の人口減少は、日本の平均よりも早い時期に始まっており、
他の地方都市に先んじて多くの課題に直面してきました。

日立市 × HITACHI

第二の創業



そこで日立グループは、住民の皆さんの力とテクノロジーとを掛け合わせて、持続可能な日立市を実現し、地方創生の成功モデルを探るプロジェクトを始めました。

これは、日立の115年にわたる課題解決の集大成、いわば「第二の創業」と言える挑戦です。

プロジェクトが立ち上がって1年半。
未来の日立市を模索し続けるプロジェクトメンバーに、
今の思いを聞きました。

【映像が流れる】

誰もが「自分ごと」として未来を考える



たとえ小さくとも、自ら取り組んだことの結果が目に見える瞬間は、私たちの背中を押し、「自分ごと」として未来を考える原動力になります。

住民の皆さんとのワークショップやイベントを重ねるうちに、日立市の未来が「自分ごと」へと変化してきていることを、実感しています。



今後、プロジェクトで得られた経験を糧に、日本国内のさまざまな都市に、この取り組みを広げていきたいと考えています。

日立グループと個々のお客さまによる一対一の協創ではなく、誰もが未来づくりに参加できる「ソサエティとの協創」を加速してまいります。

 進化したLumada

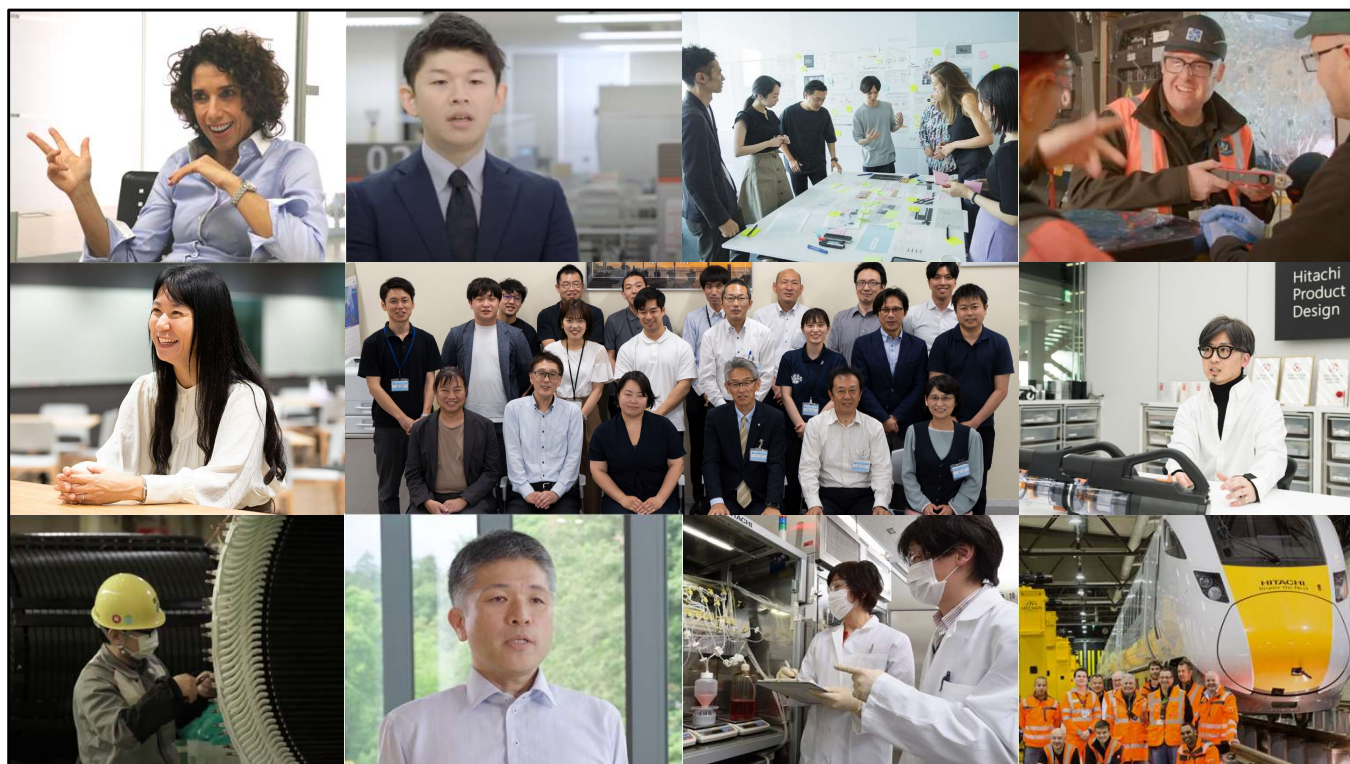
 「真の」One Hitachi

 ソサエティとの協創

今日は、ハーモナイズドソサエティの実現に向けて日立が持つ3つのカギ、「進化したLumada」、「真のOne Hitachi」、そして「ソサエティとの協創」についてお話しました。

社会情勢はこれまで経験したことのないスピードで変化し、世界中で分断が生じています。

しかし、「和を重んじる」日本だからこそ、私たちがハーモナイズドソサエティという未来の在り方を、今こそ世界に向けて発信していくべきではないでしょうか。



本日お越しいただいた皆さまと一緒に、業界の壁を越え、
知恵と技術を結集して、実現へ向けた歩みを始めることができれば、
この上ない喜びです。





大阪・関西万博の会場でも、「多様でありながら、ひとつ」という
思いが込められたリングのもとで、未来に向けたアイデアが
世界に向けて発信されています。

日立は、KDDIさまをはじめとする業界の壁を越えた12者、
および博覧会協会との共同出展事業である「未来の都市」
パビリオンに参加しています。

ここでは、来館された方々がつながり、ご自身で未来のシナリオを
選択する体験ができます。

皆さんは、一体どのような未来を選択するのか？
ぜひ足を運んでいただき、ご体感下さい。



What's next?

私のプレゼンテーションはまもなく終了しますが、もうすでに、スクリーンの向こう側から、未来に向けたチャレンジの足音が聞こえてきています。

【映像が流れる】

時代も社会も変わり続けるからこそ、立ち止まらずにWhat's next?と問い続ける楽しさを、皆さまとともに、世界中へ届けていきたいと考えています。

本日は誠にありがとうございました。